

ヤンゴン素描 5
お屋敷町・ダゴン町
山形洋一

保健省の統計（2009年）によれば、ダゴン町の人口密度は1平方キロメートルあたり4575人と、南に隣接した商業地区の10分の1に満たない。ヤンゴン管区45タウンシップのうち28位。市街地にありながら、郊外なみに人口稀薄だ。

その理由のひとつは、町の北半分がシュエダゴンパゴダや、ピープルズパーク、旧国会議事堂などで占められて、事実上無人になっていることだが、南半分を占める住宅地もまた、官舎や各国大使館など豪邸が主で、贅沢に敷地をとっている。日本人学校もそうした邸宅のひとつに数えてよいだろう。

生活臭に乏しく、やや取り澄ました町ではあるが、異なる様式の建物を見比べたり、手入れの行き届いた庭を文字通り垣間見たりするには面白い。

古い建物の中で一番質素なのは、インドや旧英領アフリカでよく見かける「バンガロー」（ベンガルの民家を模した官舎）である。積み木を重ねたようなずんぐりむっくりで、天井が高く、軒が深く、窓には網戸がはめられてあることが多い。屋根は寄棟もしくは切妻、赤い瓦が標準のようなのだが、苔むすと冴えない。平屋もあるが、ダゴン町では二階建てが多く、ポーチの下は車止めになっている。

